

龍源寺報

令和4年正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原信樹
佛母寺住職	松原信樹	
正福寺住職	松原行樹	
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

新年におもむ

龍源寺住職 松原信樹

明けましておめでとうございます。中国では正月十五日を「上元節」とし、その夜を「元宵」と呼び、灯籠まつりが行われました。家々の前には色鮮やかな灯籠が飾られ、街には、龍や獅子などの形をした灯籠が練り歩く様子が資料から読み取れます。これは、現在においても、春節(旧正月)の最後を飾る華やかな行事として今日の中国に引き継がれています。正月十五日を上元と呼ぶのは、一月・七月・十月の各十五日をそれぞれの元とし、上元・中元・下元とする道教の三元説にもとづきます。例えば、現在の日本で中元と言えば、歳暮と並んで日頃お世話のなっている人に贈り物する風習で皆さまご存じのことだと思えます。そこで、最近手にした中国の歳時記で、映像のように描写されている中国・宋の時代の河南省開封市の正月の風景をみてみたいと思えます。

庶民は朝から互いに年賀を交わす。町々では食べ物・道具・果物・薪炭の類を賭け物にして、節廻しよろしく関撲かひものをやっている。馬行街や藩楼街、都の東の宋門外や都の西の梁門外の踴路ようろ、都の北の封丘門外、および都の南部一帯といっ

たところでは、みな五彩の棚やぐらを作り、冠りもの・櫛・真珠・翡翠・頭飾り・衣裳・造花・領抹・靴鞋・骨董などの店をならべ、その所々には舞いや歌の演戯場がならび、車馬が馳せ交う。

日暮れになると、良家の婦人も自由に関撲かひものに興じたり、演戯場に入って見物したり、町の料理屋に入って酒宴をやったりするが、こうした習わしがしきたりになっているので、お互いに怪しまない。それは寒食の日と冬至の日と共に、三日とも同様である。たとい細民で貧乏なものでも、必ずさっぱりした着物をつけ、酒を飲み交わすのである。

(『東京夢華録』巻六)

大抵、日本で正月といえば、元旦に早く起き、神社やお墓をお参りし、家長に新年の挨拶をして、おせち料理をいただき、年始回りにでかける方も多いと思えます。もちろん、旗日で休日なので、海外旅行に行ったり、ホテルや旅館でゆっくりされる方もいらっしゃると思えます。私は、元旦から三日間、早朝に大般若祈祷の法要を行い、天下泰平、五穀豊穡、檀信徒の皆さまの無病息災を龍源寺本堂でお祈り致します。朝のお経が終わると、朝食に精進物のお雑煮を食べ、各寺院に年頭回礼ごあいさつにでかけます。今まであまり深く考えませんでした。五穀

(次ページへ続く)

(前ページより)

豊穰を祈るあたり日本が農耕生活を基準としてきたことが再確認できます。また、一年の「年」の字が、本来「稔り」をあらわすように、穀物の稔りを軸にして、一年という生活周期が作られたのかもしれない。

人々の日常生活というのは、文化を創造する上での基盤であって、どのような芸術作品にもその基盤には人々の日常生活があります。思うに、正月、元旦という年中行事は、一年を周期として、日々繰り返される単調な生活に、リズムと活力を与えるものではないでしょうか。時を刻み続けてきた正月の行事を大切にしていきたいと思います。

かんのんさまに

金五万円 湯原武司殿

ありがとうございました

大般若会(新年の祈禱会)

一、一月八日(土曜日)午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

※龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして考え、先代から引き続き、境内整備に力を注いで参りたいと思います。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

柳 緑

明けましておめでとござい

ます。百年前に建てられた古

い書院の改修工事も終わり新

たな気持ちで新年を迎えます。

改修以前は、書院は傾き、水

屋は雨漏りを繰り返し、冬はすきま風がひ

どく、夏はそのすきまから虫が入り、傾い

ているがために戸も開かず、戸の鍵を掛

けっぱなしの状態でした。▼古い書院の床

の間には、時代を感じさせる掛軸が合いま

す。時代を経てしか醸し出せない色という

ものがあります。そのようなものも大切に

後世に引き継いでいきたいと思っています。

▼東京のコロナ感染者数も落ち着いてきた

せいか、年忌法要やお通夜の後、御齋を応

接間でなさる方が増えてきました。少しず

つ日常が戻ってきた感じが致します。▼古

川橋周辺の再開発が行われています。普段

のお仕事で古川橋の交差点を車やバスで通

る方も多いと思います。町工場の多かった

地域にタワーマンションが建つようになり

ました。以前に増して、龍源寺の境内の緑

を大切にしていきたいと思えます。▼母の
膝の調子はあまり良くありませんが、毎日

朝のお掃除などお寺のお仕事をしてくれて

います。それは、お寺で生まれ育ち体に染

みついた習慣なのかもしれません。家内の

亜矢は、お寺の仕事と自分の仕事と娘のこ

とに精一杯の毎日です。もちろん、航空会

社での家内の仕事についても、母もできま

せんし私にも到底できません。よくこれだ

けのことができるなど、女性陣に感謝して

います。娘の瑞樹もお茶のお稽古を始めま

した。はじめは人見知りで大丈夫かな？と

思いましたが、今では、そのような心配事

をする必要もなく、元気に幼稚園に出かけ

ていきます。私も娘の送り迎えをたまに致

しますが、よくよく考えてみますと娘と一

緒に幼稚園に出かけるなんてことは今しか

出来ない貴重な時間だと思ひ、一期一会を

大切にしています。▼幼稚園という小さな

子供のコミュニティーですが、私は人との

関わり合いの中で色々な体験を通して、人

間は成長していくことを実感しています。

なぜなら、恐らくそこには、大人が体験す

る会社や組織の人間関係のようなものが、

シンプルにコンパクトにそのままあって、
楽しいことだけでなく、くやしいことや

答えのだせないどうにもならないことが無

数にあって、壁にぶち当たりながら成長し

ているのが手に取るようにわかるからです。

そのような時、私は、いつも「あきらめな

いこと」を色々な表現を変えて五歳の娘に

伝えていきます。▼お正月に祈禱する『大般

若経』の写経を始めて十七年になり、六百

巻のうち半分である三百巻目の製本に到達

致しました。本当にありがたいことです。

将来は、世界平和、疫病退散、五穀豊穡、

檀信徒の皆さまの無病息災、家内安全の為、

経蔵を作りきちんとした形で納めたいと思

います。以前からお伝えしています納骨堂

につきましても、現在進行していますので、

発表できる段階で進捗状況を皆さまにお知

らせしていきたいと思ひます。▼令和四年

一月八日(土)、午前十一時より新年の祈禱

会である大般若会を厳修致します。サーモ

グラフィードの検温、手指の消毒をお願い

致します。本堂でいす席で法要のご参加の

方はエレベーターを使用できますし、外階

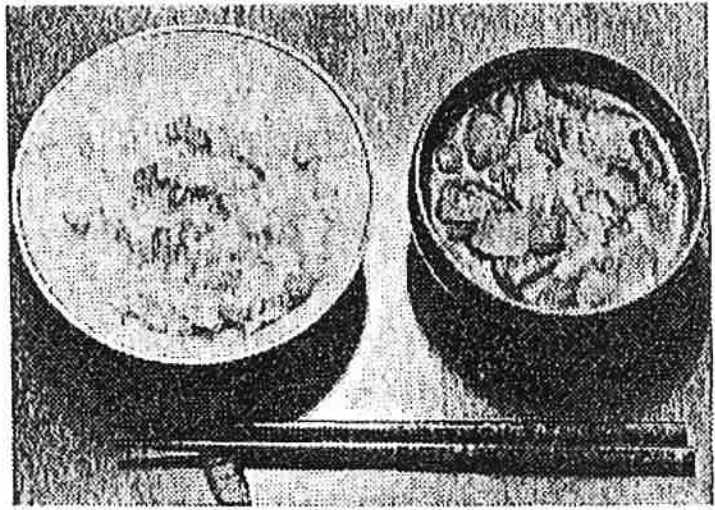
段を使って外からのお焼香もできます。ご

参加出来ない方は、御回向させていただきます。
寺族一同お待ちしております。(信樹)

味覚歳時記

奈良茶めし

松原静子



禅宗の僧堂で修行する僧たちにとって、茶めしは大きな法要があったときにだけ食べることができ、ご馳走です。

わたくしにもよく作りますが、香

ばしくて素朴な味のごはんです。

四人前ですと、米・四合に、大豆・四勺しやく。大豆は、よく煎いったあと、お盆ますにのせ、まな板や升ますなどで上から押しして、皮をむきます。

お茶は、高級なお茶ではなく、ほうじ茶を煎り、ふだん、飲む程度の濃さでけっこうです。

このお茶でご飯を炊くわけですが、お茶だけでは濃いので、水も少し入れた方がいいようです。

塩、酒も、お好みの分量で入れてみてください。

お肉や魚のご馳走ばかりではなく、時には、茶めしに、けんちん汁といった精進料理はいかがでしょう。